

山口県長門市の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る疫学調査チームの調査概要
(平成26年12月30日実施)

平成26年12月30日に実施した現地調査の結果、以下のことを確認した。

1 発生農場の周辺環境

- ① 発生農場は、山林に囲まれ、2つのため池が隣接している。当該地域には、水田が多い。
- ② 農場に隣接する2つのため池のうち、1つには数羽のマガモが確認された。また、農場周辺には、それ以外にも複数のため池が近隣に存在し、そのひとつで数十羽のカモ類が確認された。
- ③ 発生農場には10棟の鶏舎があり、農場入口から奥に向かって10棟が並んでおり、発生鶏舎は、農場入口から4つ目に位置している。

2 管理者及び従業員

- ① 農場主によると、農場主のほか13名の従業員がおり、いずれも、最近の海外への渡航歴はない。
- ② 農場主によると、農場へ立ち入る者は、農場入口で着替え及び靴の履き替えを行っている。また、鶏舎に入る前にも長靴の履き替え及び踏み込み消毒を行っている。

3 農場の飼養衛生管理

- ① 鶏舎横に飼料タンクが設置されているが、タンク上部に蓋がなされており、野鳥の接触の可能性や、糞の混入の可能性は低いと考えられた。
- ② 給与水は、井戸水をポンプにより汲み上げ、農場入口のタンクで塩素消毒した後、鶏舎横のタンクに貯水し、配水されている。タンクには蓋がなされており、野鳥の接触の可能性や、糞の混入の可能性は低いと考えられた。
- ③ 車両の農場への出入りに当たっては、車両用タイヤ消毒槽によるタイヤ消毒及び動力噴霧による消毒が実施されている。
- ④ 入場者記録簿において、車両消毒や踏込消毒の実施欄にチェックがない入場者が少数確認された。
- ⑤ 農場主によると、消石灰は、通路には週に1回、鶏舎周辺には月に1回散布している。
- ⑥ 農場主によると、鶏糞の搬出は、廃鶏搬出時に行っており、最近では12月下旬に実施している。

4 野鳥・獣害対策

- ① 鶏舎は、外側から、防鳥ネット（マス目は約2cm）、ロールカーテン、金網（マス目は約3.5cm）が設置されており、農場主によると、日常的にロールカーテンを開閉することにより、換気や温度管理を行っている。
- ② 野鳥等の侵入防止対策はなされていたが、鶏舎の防鳥ネットや金網と壁面に隙間が確認された。
- ③ 換気用のファンが設置されているが、動かしておらず、当該ファンを覆うシャッター等は設置されていなかった。
- ④ 農場主によると、これまで鶏舎で野鳥を確認したことはないが、ネズミを確認しており、対策を実施している。

5 死亡鶏の取扱い

農場主によると、通常、死亡鶏は、毎日夕方に回収し、農場外へ搬出している。